様式２

学校名（明石市立大観小学校）

実施日：通年	
領　域：特別活動	
取組名：情報モラルやルールについて　～明石市ネット三か条を広めよう！～　（資料「明石市ネット三か条」）	
対　象：全学年	実施場所：教室ほか

ア　ねらい

・　明石市の児童生徒のネットモラルやルールの実態を改善するために、児童会を中心に主体的に課題解決しようとする態度を育てる。

・　インターネットの利活用に伴うスマートフォン等の使用実態に関する明石市内の実態を正しく理解し、相手の気持ちを考えた言い方や行動をしようとする態度を育てる。　（価値的・態度的側面）

イ　指導内容（指導略案）や取組の概要

〇　中学校区の生徒会の実例収集や、明石市こどもサミットでの情報交流

・　本校での SNS でのトラブルの解決の為に、校区内である中学校生徒会の取組について共通理解する。

・　明石市教育委員会が主催している「明石こどもサミット」に参加し、ネットトラブルの防止に向けて他校の児童や生徒と交流する。課題を解決するために標語等の印象に残る言葉を作成し、全校児童へ周知させるための準備を行う。

〇　明石こどもサミットでの成果をもとに、学校の実態に即した取組を実施する

・　校区間で重点項目とされた３つのポイントを、明石こどもサミットで策定されたネットトラブルに関する標語にすりあわせて作成する（大観こあじ宣言）。[別紙⑤]

・　全校児童に対して作成したものを発表し、明石市の児童・生徒のネットトラブルに関する実態を伝え、予防や改善を図るように呼び掛ける。

ウ　連携先：児童（全校生）、家庭、地域

エ　連携に向けての取組

・　ネット利活用に関するトラブルや正しい使用方法について、兵庫県警察サイバー犯罪対策課による出前授業を実施し、現状と被害状況について理解を促した上で自分と他者を守るための適切な行動について啓発している。

・　明石市の児童・生徒のインターネット利活用に伴うスマートフォン等の使用実態についてのデータを公表し、正しい利活用に向けた生活習慣について家庭内で意見交流し、自律した情報活用ができる人づくりを共に育んでいくことを児童向けのプリントや保護者向けの学校通信などで呼びかける。

オ　組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点

校内の取組としてＱＵテスト（学校生活や自尊心、ネットトラブルに関する市販のアンケート）及び独自のアンケート調査を実施し、児童本人の精神状態やネットトラブルの現状把握を行っている。そうした取組は生徒指導と連携することで改善を図る展望でいる。

カ　評価の方法

アンケート（QU テスト 1&2 学期の個人比較および児童へのヒアリング）、普段の生活の見取り、ふりかえりノート

キ　成果

・　昨年度は児童同士のインターネット上のトラブルが生徒指導の課題として挙がっていたが、本年度ではネットトラブルに関する件数が０件（12 月上旬現在）である。インターネットや情報端末の利活用に関する知識を得たうえで自身の行動を制御できていると判断している。

・　スマートフォン等の情報端末を使用していない児童はインターネット上のトラブルの実態を把握していなかったが、明石市の使用実態をデータで知ることで現状を知ることができた。そのことから、課題を自分ごとに捉え、トラブルの未然防止に携わりたいという思いへとつなげることができた。

・　活動当初は本校中学校区間での連携（中学校１校、小学校３校）を見据えて取り組んできたが、中学校区内にとどまらずより広範囲に広めたいと考え、明石市全体で考え対策を出すことの良さに気付き、協働できた。中学・高校と成長するにつれ進学しそこで出会う他校の人々が、情報モラルやルールについて同じ視点で生活できることの良さを味わわせたい。

ク　課題

児童自身の心を耕す時間となるため、児童全体に発信してすぐに効果が出ないことからスピード感のある取組とはいえない。児童一人ひとりに根差すためには、他領域での継続的な取組が必要不可欠である。また、個人差により進学等で環境が変わった時に児童が状況に流されたり引きずり込まれないようにするためにも、対象児童への個別指導を積み重ねたり小中連絡会議の際に共通理解したりなど、丁寧な対応を続ける必要がある。